

## 作品介绍⑫ 「コース・アンド・エフェクト」

スウ・ドーホー作

美術館エントランスホールの西隣りで、歩道からよく見える作品が韓国出身のスウ・ドーホー（1962年生まれ）による「コース・アンド・エフェクト」です。

遠くから見ると、何やらすだれ状のものがぶら下がっているように見えますが、近くから見ると、驚くような、一体一体が人間の形をしたファイギュアなのです。その数は、なんと25000体。樹脂製の人形が肩車するように高い天井から放射状に吊り下げられています。外側は透明、中心部はまるで炎のように、濃い赤から薄いオレンジまでグラ



コース・アンド・エフェクト  
Courtesy of Artist and Lehmann  
Maupin Gallery, New York

デーションがかかかっており、照明の光を浴びて、シャンデリアのようにキラキラ輝いています。

作品タイトルは「原因と結果、因果」という意味です。人と人が支え合って形づくられているこの作品は、人間の生と死は表裏一体の関係であり、長い時間の中で連続と繰り返されていくという輪廻転生のな考えをモチーフに作られています。

スウの作品は、日本では東京都現代美術館でも見ることが出来ます。こちらは、透ける布素材で建造物を再現した作品（ファブリック・アーキテクチャー）となっています。

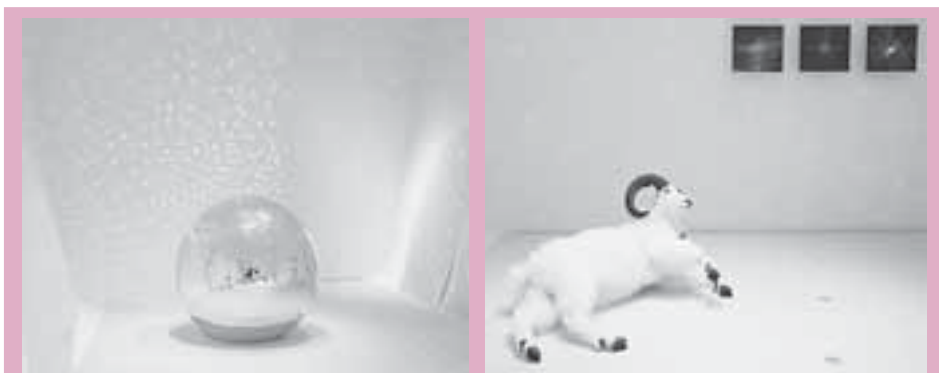
## 作品介绍⑬ 「無題/デッド・スノー・ワールド・システム」

ボツレ・セートル作

「無題」と言いながら、なぜかタイトルがあるこの作品は2階の一番奥に展示されています。同じ2階にある「自然」「暗闇」をテーマにしたノイデッカーの作品と対照的に、人工的な白の空間で構成されています（ノイデッカーの作品は広報とわだ1月号で紹介済み）。

空中回廊を通り、正面の自動ドアを通ると、そこは近未来的な空間が広がります。アクリルがはめ込まれた角のない柔らかな形の部屋は、まるで宇宙船のようで、SF映画のワンシーンに入り込んだかのような錯覚を覚えます。奥にはヤギに似た幻獣がたたずんでいます。床に置かれたミラーボールはキラキラと雪のよう光を反射し、モニターに映される幾何学的な映像と音は北欧のオーロラのようなのです。

作者はノルウェー出身のボツレ・セートル（1967年生まれ）。日本での発表は当館が初めてです。この作品は映画「2001年宇宙の旅」などからインスピレーションを



無題/デッド・スノー・ワールド・システム

受けています。光と音、空間が一体となった不思議な世界を旅してみませんか。